

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月13日
【四半期会計期間】	第43期第3四半期 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
【会社名】	株式会社ファンケル
【英訳名】	FANCL CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員CEO 島田 和幸
【本店の所在の場所】	横浜市中区山下町89番地 1
【電話番号】	045-226-1200 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画本部長 小峰 雄平
【最寄りの連絡場所】	横浜市中区山下町89番地 1
【電話番号】	045-226-1200 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画本部長 小峰 雄平
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 連結累計期間	第43期 第3四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	78,916	78,954	103,992
経常利益 (百万円)	8,888	7,277	10,401
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	6,492	4,358	7,421
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	6,633	4,574	7,563
純資産額 (百万円)	73,143	75,213	74,073
総資産額 (百万円)	97,580	101,882	100,121
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	53.80	36.05	61.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	53.58	35.91	61.25
自己資本比率 (%)	74.3	73.2	73.3

回次	第42期 第3四半期 連結会計期間	第43期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	20.07	14.09

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、当該信託が保有する当社株式を自己株式として計上しております。これに伴い、1株当たり四半期(当期)純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当企業集団(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当企業集団が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の売上高は、栄養補助食品関連事業が増収となったものの、化粧品関連事業は国内の店舗販売が振るわなかったことや、海外が中国ロックダウンの影響などにより減収となり、全体では78,954百万円(前年同期比0.0%増)となりました。営業利益は、お客様基盤拡大のために広告宣伝費を積極的に使用したことなどにより、6,442百万円(前年同期比23.5%減)となりました。経常利益は7,277百万円(前年同期比18.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,358百万円(前年同期比32.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は、44,176百万円(前年同期比1.0%減)となりました。

	2022年3月期 前第3四半期連結累計期間		2023年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	32,436	72.7	32,226	73.0	△0.6
アテニア化粧品	10,583	23.7	10,426	23.6	△1.5
boscia(ボウシャ)	794	1.8	594	1.3	△25.2
その他	797	1.8	929	2.1	16.6
合計	44,611	100.0	44,176	100.0	△1.0

	2022年3月期 前第3四半期連結累計期間		2023年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	23,045	51.7	24,066	54.5	4.4
店舗販売	10,121	22.7	8,847	20.0	△12.6
卸販売他	6,391	14.3	7,313	16.6	14.4
海外	5,053	11.3	3,949	8.9	△21.8
合計	44,611	100.0	44,176	100.0	△1.0

ファンケル化粧品は、広告宣伝を強化したことにより、通信販売および卸販売他が伸長したものの、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、店舗販売および海外が減収となり、32,226百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

アテニア化粧品は、国内は「スキנקリア クレンジング オイル」や、スペシャルケア製品が好調だったものの、海外が中国ロックダウンの影響などで減収となり、全体では10,426百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

boscia(ボウシャ)は、リアル店舗向けの卸販売が振るわず、594百万円(前年同期比25.2%減)となりました。

営業損益

損益面では、販売促進費の効率的な使用に努めたものの、広告宣伝費を積極的に使用したことなどにより、営業利益は4,893百万円(前年同期比19.4%減)となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は、30,060百万円(前年同期比2.7%増)となりました。

	2022年3月期 前第3四半期連結累計期間		2023年3月期 当第3四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	13,064	44.6	13,714	45.6	5.0
店舗販売	5,001	17.1	4,376	14.6	△12.5
卸販売他	7,554	25.8	8,888	29.6	17.7
海外	3,653	12.5	3,080	10.2	△15.7
合計	29,273	100.0	30,060	100.0	2.7

国内は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、店舗販売が減収となったものの、広告宣伝を強化したことにより通信販売および卸販売他が伸長し、増収となりました。

海外は、中国向け越境ECにおいて、ロックダウンの影響や、現地の在庫調整により減収となりました。

営業損益

損益面では、売上増により売上総利益が増加したものの、広告宣伝費を積極的に使用したことなどにより、営業利益は2,718百万円(前年同期比26.6%減)となりました。

③ その他関連事業

売上高

その他関連事業の売上高は、4,717百万円(前年同期比6.2%減)となりました。

	2022年3月期 前第3四半期連結累計期間	2023年3月期 当第3四半期連結累計期間	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米	1,526	1,503	△1.5
青汁	1,601	1,531	△4.4
その他	1,903	1,682	△11.6
合計	5,031	4,717	△6.2

営業損益

損益面では、減収となったものの、発芽米の売上総利益率の改善などにより、営業利益は89百万円(前年同期は20百万円の営業損失)となりました。

資産は、前連結会計年度末に比べて1,760百万円増加し、101,882百万円となりました。この要因は、流動資産の増加3,784百万円および固定資産の減少2,023百万円であります。流動資産の増加の主な要因は、受取手形及び売掛金の増加2,164百万円と現金及び預金の増加2,040百万円であります。固定資産の減少の主な要因は、減価償却等による有形固定資産の減少2,099百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて620百万円増加し、26,668百万円となりました。この要因は、流動負債の増加348百万円と、固定負債の増加272百万円であります。流動負債の増加の主な要因は、未払消費税等の増加などによる流動負債「その他」の増加806百万円および賞与引当金の減少593百万円であります。固定負債の増加の主な要因は、役員株式給付引当金の増加110百万円と、リース債務の増加などによる固定負債「その他」の増加152百万円あります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,140百万円増加し、75,213百万円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金の増加4,358百万円と、配当金の支払いによる利益剰余金の減少4,114百万円および自己株式処分等による自己株式の減少522百万円と資本剰余金の増加186百万円あります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.1ポイント下落し、73.2%となりました。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発関連費用の総額は2,420百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当企業集団の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	467,676,000
計	467,676,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	130,353,200	130,353,200	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株 であります。
計	130,353,200	130,353,200	—	—

(注) 提出日現在発行数には、2023年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	—	130,353,200	—	10,795	—	11,706

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,220,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 121,019,700	1,210,197	—
単元未満株式	普通株式 113,200	—	—
発行済株式総数	130,353,200	—	—
総株主の議決権	—	1,210,197	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,300株(議決権53個)および20株、失念株式が200株(議決権2個)および40株含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式が211,013株(議決権2,110個)含まれております。なお、当議決権2,110個は、議決権不行使となっております。
- 3 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式38株が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ファンケル	横浜市中区 山下町89番地1	9,220,300	—	9,220,300	7.07
計	—	9,220,300	—	9,220,300	7.07

- (注) 1 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。なお、当該株式数は上記①「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。
- 2 役員報酬B I P信託が保有する当社株式211,013株は、上記自己保有株式に含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役常務執行役員 (株)ファンケル美健 取締役会長	取締役常務執行役員 (株)ファンケル美健 代表取締役社長	柳澤 昭弘	2022年10月 1 日
取締役常務執行役員 管理本部長兼 健康支援室長	取締役常務執行役員 総合研究所長兼 研究戦略推進室長	炭田 康史	2022年10月 1 日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)および第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,108	32,149
受取手形及び売掛金	11,916	14,081
商品及び製品	5,518	5,612
原材料及び貯蔵品	5,610	5,419
その他	2,553	2,215
貸倒引当金	△101	△87
流動資産合計	55,605	59,389
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	34,715	※2 34,372
減価償却累計額及び減損損失累計額	△19,103	△19,632
建物及び構築物（純額）	15,611	14,739
機械装置及び運搬具	16,783	16,879
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,326	△11,436
機械装置及び運搬具（純額）	6,456	5,442
工具、器具及び備品	9,981	9,905
減価償却累計額及び減損損失累計額	△8,435	△8,598
工具、器具及び備品（純額）	1,546	1,306
土地	※2 14,214	※2 13,914
リース資産	205	369
減価償却累計額及び減損損失累計額	△127	△202
リース資産（純額）	78	167
その他	-	136
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	△28
その他（純額）	-	107
建設仮勘定	34	164
有形固定資産合計	37,941	35,842
無形固定資産		
その他	2,587	2,498
無形固定資産合計	2,587	2,498
投資その他の資産		
投資有価証券	125	125
その他	※1 3,860	※1 4,026
投資その他の資産合計	3,986	4,151
固定資産合計	44,516	42,492
資産合計	100,121	101,882

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,431	3,177
未払法人税等	1,271	1,148
契約負債	2,461	2,964
賞与引当金	1,234	641
資産除去債務	2	11
その他	5,971	6,778
流動負債合計	14,373	14,721
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	10,100	10,062
役員株式給付引当金	108	219
退職給付に係る負債	880	951
資産除去債務	496	472
その他	89	242
固定負債合計	11,675	11,947
負債合計	26,048	26,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	12,003	12,189
利益剰余金	70,766	71,011
自己株式	△20,003	△19,480
株主資本合計	73,561	74,515
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	100	255
退職給付に係る調整累計額	△228	△168
その他の包括利益累計額合計	△128	87
新株予約権	640	610
純資産合計	74,073	75,213
負債純資産合計	100,121	101,882

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	78,916	78,954
売上原価	26,252	25,841
売上総利益	52,664	53,112
販売費及び一般管理費	44,237	46,669
営業利益	8,426	6,442
営業外収益		
受取利息	38	38
受取配当金	0	0
為替差益	199	685
受取賃貸料	99	89
雑収入	164	127
営業外収益合計	502	941
営業外費用		
支払利息	0	0
固定資産賃貸費用	9	6
貸倒引当金繰入額	-	50
雑損失	30	49
営業外費用合計	40	106
経常利益	8,888	7,277
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	25	5
減損損失	14	128
店舗閉鎖損失	31	65
支払補償金	20	-
その他	3	-
特別損失合計	94	199
税金等調整前四半期純利益	8,793	7,077
法人税、住民税及び事業税	2,062	2,517
法人税等調整額	239	201
法人税等合計	2,301	2,719
四半期純利益	6,492	4,358
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,492	4,358

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	6,492	4,358
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	86	155
退職給付に係る調整額	54	60
その他の包括利益合計	141	215
四半期包括利益	6,633	4,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,633	4,574
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

(米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)第842号「リース」の適用)

米国会計基準を採用している在外連結子会社は、第1四半期連結会計期間の期首より、ASC第842号「リース」を適用しております。これにより、当該在外連結子会社における借手のリース取引については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産および負債として計上することといたしました。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置で認められている、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、使用権資産は有形固定資産の「その他」に、リース債務は流動負債の「その他」および固定負債の「その他」に含めて表示しております。なお、当該会計基準の適用による四半期連結損益計算書に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症による影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方等を含む主要な仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
投資その他の資産「その他」	24百万円	51百万円

※ 2 国庫補助金等の受入による圧縮記帳額は次のとおりであり、四半期連結貸借対照表計上額および連結貸借対照表計上額はこの額を控除しております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
建物及び構築物	－百万円	301百万円
土地	173百万円	473百万円
計	173百万円	774百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	3,319百万円	3,248百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月10日 取締役会	普通株式	2,051	17.00	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金
2021年10月28日 取締役会	普通株式	2,051	17.00	2021年9月30日	2021年12月3日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月10日 取締役会	普通株式	2,055	17.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金
2022年11月4日 取締役会	普通株式	2,059	17.00	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

- (注) 1 2022年5月10日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。
2 2022年11月4日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	44,611	29,273	5,031	78,916	—	78,916
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	44,611	29,273	5,031	78,916	—	78,916
セグメント利益又は損失(△)	6,075	3,701	△20	9,756	△1,330	8,426

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△1,330百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	44,176	30,060	4,717	78,954	—	78,954
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	44,176	30,060	4,717	78,954	—	78,954
セグメント利益	4,893	2,718	89	7,702	△1,259	6,442

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益の調整額△1,259百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注)	
通信販売	23,045	13,064	3,820	39,930
店舗販売	10,121	5,001	275	15,398
卸販売他	6,391	7,554	924	14,870
海外	5,053	3,653	10	8,716
顧客との契約から生じる収益	44,611	29,273	5,031	78,916
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	44,611	29,273	5,031	78,916

(注) 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注)	
通信販売	24,066	13,714	3,544	41,326
店舗販売	8,847	4,376	291	13,515
卸販売他	7,313	8,888	873	17,075
海外	3,949	3,080	7	7,037
顧客との契約から生じる収益	44,176	30,060	4,717	78,954
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	44,176	30,060	4,717	78,954

(注) 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	53円80銭	36円05銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	6,492	4,358
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	6,492	4,358
普通株式の期中平均株式数(株)	120,672,368	120,899,488
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	53円58銭	35円91銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	489,616	482,536
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 役員報酬BIP信託が所有する当社株式を、1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。なお、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間において211,500株、当第3四半期連結累計期間において211,179株であります。

2 【その他】

第43期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)中間配当について、2022年11月4日開催の取締役会において、2022年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 2,059百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 17円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2022年12月5日 |

(注) 配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

株式会社ファンケル
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江 村 羊 奈 子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 宮 正 俊

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンケルの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ファンケル及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。